

# 大洋州気候変動対策事業 — 気候変動の脅威の最前線で —

## 社会課題

大洋州に浮かぶ島々は、南の楽園のイメージとは裏腹に、サイクロンや地震、津波、干ばつなどのあらゆる災害リスクにさらされ、災害の発生確率と対応能力としては、世界で最も自然災害に対して脆弱な地域の1つです。※自然災害リスクのランキングトップ3を大洋州の国々が占める(世界リスク報告書(2021))。



トンガ赤十字社による海底火山噴火・津波時の救援活動(2021年)  
© 国際赤十字・赤新月社連盟

大洋州地域では近年、気候変動の影響がますます深刻化。サイクロンや干ばつなどの災害が強大化し、その発生頻度も増加しています。海面上昇、海岸侵食、海洋の酸性化も進行し、漁業や農業など、人々の生活や生計も甚大な影響を受けています。多数の島々が点在するため、物流や通信のアクセスも限られ、災害への対応力も限定的です。2023年にバヌアツを襲ったサイクロンでは、全人口の66%が被災し、壊滅的な被害がもたらされました。※同国政府発表  
気候変動の影響は、低地の環礁国が多い大洋州諸国に差し迫る脅威であり、気候変動との戦いの最前線にある人々の現在と未来を守るため、複合的な取り組みが求められています。

## 赤十字の解決策

若者のアイデアと行動で、気候変動の脅威に立ち向かい  
「適応」と「緩和」の両面から人々のいのちを守る

◆アプローチ:  
「人道団体のための気候・環境憲章」(2021年)に沿った  
包括的・長期的視点の気候変動事業

◆目的:  
気候変動による将来の人的影響を軽減するとともに  
今、その脅威に直面している人々を支援するため、  
「適応策」「緩和策」「アドボカシー」の取り組みを強化。

◆対象国: 大洋州島嶼国の11カ国  
トンガ、ツバル、キリバス、サモア、フィジー、ソロモン諸島、  
バヌアツ、ミクロネシア、マーシャル諸島、パラオ、クック諸島



### 【SDGsとの関係性】



## 求められる、気候危機(Climate Crisis)への対応

大洋州は、気候変動の影響を真っ先に受ける地域でありながら、適応策が十分に講じられておらず、人々はリスクにさらされています。そこで、赤十字は地域住民たちが持つ力に着目し、特に若い世代が中心となって気候変動の脅威に屈しない社会を作り、持続可能な未来を築く支援を行なっています。また、災害のリスクを軽減するため、行政など関連機関との連携を深め、気象予測に基づく災害の早期対応を進めます。さらに、地域内の赤十字社が率先して温室効果ガスの抑制など、様々なアイデアを出し合いながら、気候変動の緩和策に取り組みます。

### ◆活動例1:若者による気候変動アクション!



#### ● 地域の中心を担う若者

大洋州の年齢分布の中央値は21歳—24歳。若者の力とアイデアを活かし、地域レベルで気候変動に適応する草の根の取り組みを後押ししています。

#### ● 世界で最も自然災害が多い国、バヌアツ

バヌアツ赤十字社主催の気候変動研修では、若者たちが自身の地域で出来る適応策を計画しました。人口約1,000人のマンゴ地区では、長期化する干ばつにより安全な飲料水の不足が最も深刻な課題です。バヌアツ赤十字社は住民とともに、取水施設の整備を実施し、障害者や高齢者など災害時要支援者も安全な水へアクセスできるよう取り組んでいます。

### ◆活動例2:環境に配慮した事業運営

#### ● 一つ一つのアイデアを大切に

各国赤十字社の事業特性を踏まえ、実践可能で持続的な温暖化対策(緩和策)を推進しています。

#### ● 車から自転車へ

サモア赤十字社では、これまで車両を用いて地域を訪問してきましたが、環境負荷が少なく、燃料費やメンテナンス費用も安価な自転車に切り替えることに。利便性が高まり、未舗装路の多さからこれまでアクセスが困難であった家庭や災害弱者層への訪問にもつながり、水や物資の配布、救急法講習の開催などが実現しています。

